

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市幸町南児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3	指定期間	平成27年4月1日から令和2年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》18,760人 (前年度比 82.5%)</p> <p>平成30年度 22,741人 平成29年度 22,805人 平成28年度 23,777人</p> <p>《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 ( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者に支払った費用 26,234千円 (25,936千円)</li> <li>その他市が負担した費用 0千円 (0千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用料収入 0千円 (0千円)</li> <li>その他収入 0千円 (0千円)</li> </ul>
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童館が利用者にとって居心地の良い場所となるよう、綺麗な環境作りやあたたかな雰囲気作りを目標に、全ての職員が一丸となり児童館事業の充実に取り組んでいる。児童クラブにおいては、日々の遊びが充実するよう「将棋教室」や「創作ひろば」の定期的な開催、ドッジボール等の運動遊びを通して健全な心身の発達を支援している。学校や家庭とも連携を深め、関係者による協力体制のもと子どもの育ちを支援している。	18/18

### 三 評価総括

#### 《指定管理者（ MIYAG I 子どもネットワーク ）による自己評価》

幸町南児童館は、管理運営団体の活動理念を受けて、「温かい雰囲気づくり」と「きれいな施設の維持」を重点とし、子供たちやその保護者が「この児童館で過ごせてよかった」と実感できる児童館運営を目指し、児童の健全育成、子育て支援、放課後児童健全育成、地域連携の各事業を企画・運営してきた。「子供は遊びの中で育つ」「子供は地域の中で育つ」ことを念頭に置き、豊かな触れ合い体験を多く取り入れてきた。地元の連合町内会や病院施設、障害者施設、大型店舗等と連携し、すずめ踊りの披露を通して地域交流に努めた。また、パラリンピック開催を見据え、近隣の障害者施設とポッチャによる交流活動も取り入れ、子供たちと障害者が笑顔で取り組める行事を設定できたことは、児童の健全育成に大変有効であったと考える。児童館まつりはコミュニティセンターとの連携をさらに深め、より多くの団体と子供たちをつなげる工夫を行った。子育て世代のママさんと看護師や保健師とのつながりをつくり、悩みを解決する行事を持つことができた。今年度も乳幼児親子の来館者は多かった。安心してひと時を過ごせる場を提供することができたと考える。利用者アンケートも大変良い評価だった。児童クラブにおいては、「子供のつづやきを実現する」「子供の活躍する場を確保する」「どうすればよかったか失敗から学ぶ」経験を大切にし、全職員一丸となって支援してきた。子供たちは自ら考え、行動することによって、他から評価を得て、自己有用感を高めてきている。それは次の活動への強い意欲となって表れている。次年度も「地域とともに育つ子供、地域とともに育つ児童館」の運営を目指して、児童館の主たる4事業に取り組んでいきたい。

#### 《施設設置者（仙台市）による評価》

#### 総合評価

地域交流の一環として取り組んでいる「すずめ踊り」は、子ども達のみならず地域の中にも根付いており、町内会の祭りや障害者施設、地域の大型ショッピングセンターや病院など様々なイベントや施設で披露し事業の軸となっている。また、子ども達と共に地域への感謝を伝える「ありがとうの花束」や近隣の障害者施設とのポッチャ等を通して、地域の方々や関係団体との交流をさらに深めるなど、地域全体で子どもの育ちを支える環境づくりに努めている。

小学生の高学年を中心とした登録制の「プチはっぴーサウス」では、異年齢集団の活動の中で、メンバーの児童が遊びを企画し、児童館行事等では中心的な役割を担うなど、児童の自主性や自己肯定感を育む場となっている。

登録制の幼児クラブ「さいわいくんタイム」や自由参加の「よちよちドロップ」では、季節感のあるものや工夫を凝らした遊びを提供し、豊かな情緒の育みにつなげている。また、関係機関と連携し、専門家の講話を企画するなど子育て世代の悩み相談の場を設けているほか、「ホッとサロン」や「コトノハカフェ」を定期的に開催し、リフレッシュや保護者同士の交流を深める場を提供している。活動的な子育て支援クラブとも連携し事業を充実させたことにより、乳幼児親子の利用も多く、地域の子育て支援拠点を担っている。

S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

#### 特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課